第四回中間報告

（報告期間 2021 年　5 月　21 日 ～ 2021 年 8 月 21 日）

基本情報

氏名：畑中直人　（国際ロータリー第 2710 地区 2020-2021 年度 地区補助金奨学生）
派遣クラブ：三次ロータリークラブ
カウンセラー： 前田 茂様
受入クラブ：Rotary Club of Bordeaux
カウンセラー：Ms. Danièle Faivre
教育機関：ボルドー・モンテーニュ大学
Bordeaux Montaigne University
専攻分野：アフリカダイナミクスに関する学際的研究
Master Interdisciplinary Studies of African Dynamics (MIDAF)

目次

1. 学業面での成果（インターンシップについて）
2. 受け入れ地区でのロータリーとの関わり
3. 生活面
4. 今後の課題、目標

1. 学業面での成果（インターンシップについて）

前回の報告書で詳述したように、3 月 22 日から 7 月 16 日まで、CCFD-Terre solidaire というフランスの開発系 NGO で、テレワークという形でインターンを行いました。基本的に一人での勤務なので、孤独を感じることもありましたし、週数回おこなうオンラインミーティングだけでは、わからないことや業務について相談しづらい点もありました。しかしながら、疑問に思ったことがあればすぐに上司に相談し、与えられた仕事に対してやるべきことに優先順位を立てて仕事をした結果、インターンの業務を通じて様々な経験を積み、知見を養うことができました。

・研究・分析レポートの執筆

コンゴ民主共和国東部の土地をめぐる対立と紛争について仏語 14 ページ、日本語で約 28 ページの A4（の）レポートを作成しました。タイトルは「*Terre, pouvoir, identités à l'est de la RDC : les identités en question au regard des enjeux fonciers dans l'est de la RDC*（東部コンゴ民主共和国の土地、権力、アイデンティティー：東部コンゴ民主共和国の土地問題で問われるアイデンティティー）」です。レポートでは土地、権力、アイデンティティーの 3 つのキーワードをもとに、土地利用や、権利の問題など土地紛争が長期化している政治的、社会的な要因を探求しました。また、土地問題に関し、現地や専門家の人の意見を聞くために、現地 NGO の 3 団体には仏語で、海外の研究者（ゲント大学の教授、シーフィールド大学の講師）に対し英語でインタビューを実施しました。

現地の NGO 団体に対しては現地から視た土地問題の捉え方や社会変化がもたらす伝統的リーダーの役割の変化について、同問題に対する考察、また団体の活動で直面している困難などについて伺いました。海外の研究者には、土地問題や紛争激化の構造的な要因についての分析を伺ったり、統治の機能不全により破綻国家と呼ばれるコンゴ民主共和国が土地問題にどのように取り組んでいくべきかといった政治に関する考察を伺ったりしました。それぞれのインタビューに対して、事前に質問を準備し、インタビューの流れに合わせて、質問を選んだり、新しいものを考えたりと、柔軟に対応しました。初めてのインタビュー実施ということもあり苦労しましたが、インタビュー方法についても学びを深め、貴重な知見を得ることができました。

レポートを書いて学んだことは、大きく 2 点あります。1 点目は、コンゴ民主共和国東部の土地紛争の原因についてです。民族アイデンティティは土地紛争の激化の原因になりうるが、土地紛争と民族紛争を直接的に結びつけるのは間違いで、より広い視野で紛争の原因を考察する必要があることです。2 点目は、現地の人に聞き取りを行い、現地の状況を理解することの大切さです。土地紛争についての研究の一環で行ったオンラインインタビューで、現地社会の変化や土地に関する伝統的リーダーの重要性等、文献調査では分かりづらい点を明らかにすることができました。この経験から私は、当事者の視点が開発援助立案の適切な現状把握において必要不可欠だと認識しました。

研究レポート執筆で特に苦労したのは、外国人の仏語の聞き取りについてです。団体の現地パートナーである、コンゴ民主共和国の 3 つの NGO 団体にオンラインインタビューを実施しました。同国では仏語は公用語ですが、彼らの話す仏語は、フランス人のものと比べ、表現や単語が異なったりするといった特徴がありました。加えて現地のインターネットの接続が良くなく、音質が悪かったり、途中で切れたり繋がらないといったこともありました。オンラインインタビューの議事録をまとめる仕事がありましたが、土地の権利についてのなどの専門用語が多くでてくるので、全ての内容を理解するのにかなり苦労しました。録音したデ

ータを何回も繰り返して書き留めたり、フランス人の友人に手伝ってもらったりしたことで、それぞれの議事録を細かくまとめることができました。

パリ出張

6 月 30 日から 7 月 5 日にかけて、本部のあるパリに出張に行きました。本部はパリの中心部に位置しており、6 階まである比較的大きな建物でした。コロナの関係で依然テレワークが推奨されていたこともあり、多くのスタッフに会うことは叶いませんでしたが、アフリカ部のほぼすべてのスタッフに対面で会えたことは大変嬉しかったです。ミッション・マネジャーと二人でミーティングをしたり、アフリカ部のスタッフ全体の会議に参加したりしました。アフリカとフランスの関係性についてのプレゼンを聞いたり、今後のプロジェクトや総会に向けての準備といった話し合いに参加したりました。お昼は本部の近くのレストランに行きお昼ご飯を食べたり、一度スタッフの皆さんと仕事終わりに一杯飲みに行ったりしました。少しですが、スタッフの方々と直接会い、個人的にゆっくり話したりする時間があったので、スタッフ一人一人について知ることができました。

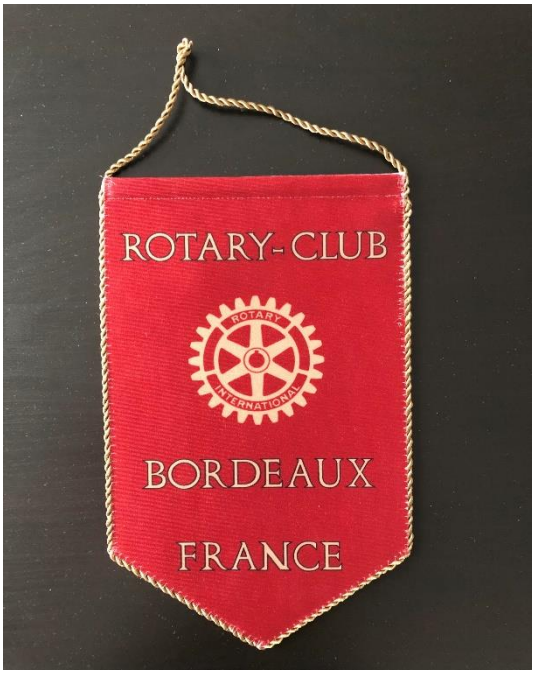
NGO 本部の正面の写真

アフリカ部のスタッフとの
の写真：
筆者の後ろが、直属の上司
真向いがアフリカ部の代表

2.　受け入れ地区でのロータリーとの関わり

対面での会合やイベントの開催は、コロナの影響でなかなか再開が難しかったようで 6 月下旬に再開したと伺いました。8 月 4 日にクラブの昼食会に招待していただき、三次ロータリークラブとボルドーロータリークラブのバナー交換をする機会をいただきました。カウンセラーのダニエルさんに紹介していただき、10 分ほどの卓話をしました。インターンや学部時代などのこれまでの経験、フランスに来た理由、フランスでの学び（インターン・大学院）について話させていただきました。

卓話の後は、日本と比較してフランスの文化で驚いたことについて、規律を重んじる日本人の気質はどこから来るのか、日本が特に力を入れている開発援助地域はどこなのかといったような様々な質問をいただきました。また、仕事の関係で日本に行ったことのある方や、剣道などを前に習っていたという方から日本の文化についてなどのお話をふっていただきました。短い時間でしたが、ロータリアンの皆様とお会いできたのはとてもいい経験でした。



バナー交換の様子：
左から、カウンセラーの Danièle Faivre さん、2021-22 年度会長 Dominique Pionneau さん、筆者、ロータリアンの Jean Marie PRADIE さん

3. 生活面

5 月以降、高齢者以下の国民への予防接種が進んだことで、さまざま制限が解除されました。私もファイザー製薬のワクチンを 6 月中旬、7 月中旬にそれぞれ接種しました。しかし最近は、デルタ株の流行もあり、第 4 波がきています。感染拡大を防ぐために、12 歳以上のすべての人のワクチン接種が義務付けられ、8 月 9 日から、衛生パスポート（pass sanitaire）が実施されました。これはワクチン接種をしているという証明で、これがないと飲食店の店内利用、美術館、映画館、大きなショッピングモールなどに入ることができません。ワクチン接種していない人は、PCR テストなどを受け陰性証明書を入手することが必要で、同証明書の有効期間はわずか 3 日間です。ワクチン接種義務化に反対するデモがフランス全国の都市で依然として行われており、先週末（14-15 日）には 20 万人を越える市民がデモに参加しました。この政策には賛否両論ありますが、おかしいと思ったことに対して声を挙げ行動するといったところには、フランス人「らしさ」が現れていると思います。今後大幅な制限が発令しないことをただ祈るばかりです。

また今年は近年稀にみる冷夏で、フランスの夏の良さをあまり感じられていません。半袖半ズボンの軽装で外出するのが肌寒い日が続き、通り雨などが多いです。また地域によっては、ゲリラ豪雨により土砂災害が起きたというニュースもあり、地球温暖化の一種の影響が現れていると思います。

4. 今後の課題、目標

現在卒業論文に取り組んでいますが、卒論チューターとの相談が遅れたことやインターンが最近まであったことで、執筆がかなり遅れています。予定通りに書き上げられるように、全力を尽くします。